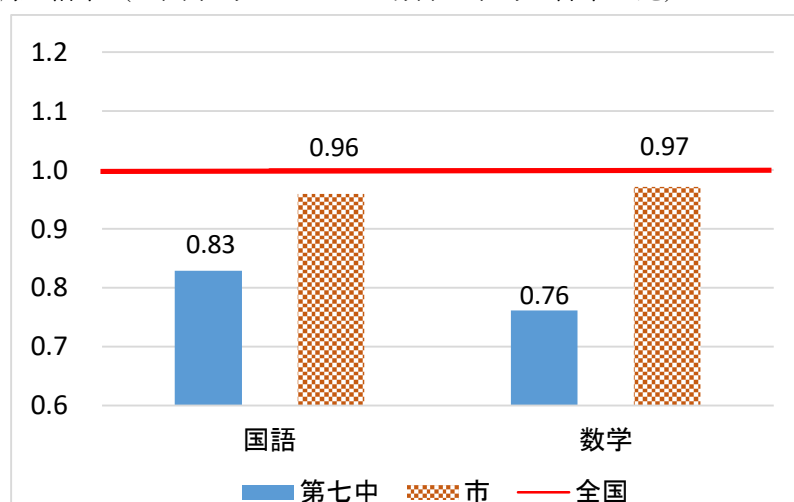


令和3年度 全国学力・学習状況調査について  
第七中学校区 第七中学校 第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

平均正答率は全国平均を下回ったが、「言語についての知識・理解・技能」においては全国平均に近づく結果もあった。「書く能力」については、課題がある。書く力の基礎となる、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことができるように、学習活動を通して考える力の育成にも取り組む。

【数学】

「数学的な技能」においては、全国平均に近づく結果となった。しかし、「数学的な見方や考え方」では、数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することなど、論理的に思考、表現することが課題である。今後も、習熟度別少人数授業をより有効に展開し、基礎基本を充実させ、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」を身につけることにつなげていく。

【質問紙調査】

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対する肯定的な回答は年々向上しているが、依然として課題が残る。また、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」においても上昇傾向が見られているので、ディベート教育の実践を通して、引き続き生徒の考える力の育成に取り組む。

○学力向上の取組

【中学校区】

「自らの力と意思で進路選択のできる子」の育成に、小中学校が力を合わせ9カ年で取り組んでいる。保護者向けリーフレット「家庭学習のすすめ」を配付し、家庭学習の重要性について啓発しながら連携して取り組んでいる。今年度は、加配を活用した英語科での小中連携教科指導も行っており、取組を通して、小学5・6年と中学1年とのスムーズな接続につなげていく。

【学校】

「1年もの作り教室」「2年職業学習」「3年進路指導学習」などのキャリア教育を柱として、学習に対して生徒の主体的に取り組む姿勢を育み、自らの意思で夢を実現できる力を養う。